

「イクメン」道険し!?

お風呂、おむつ替え…祖父世代も奮闘

育児に積極的に参加する「イクメン」の輪を広げようと、八幡西区の北九州市立子どもの館で15日、「男2代の子育て講座」があり、20〜70代の16人が参加。生後6カ月の娘がいる「新米パパ」の私も体験させてもらった。（宮下雅太郎）

新米パパ記者が講習会体験

重さ3kgの赤ちゃん人形を抱え、ぎこちない手つきでベビーバスに入れようとする男性たち。「お風呂はコミュニケーションを取るチャンス。たくさん話し掛けて」という助産師の声が飛ぶ。体や頭を拭く際、人形の耳に水を入れてしまう参加者もちらほらいる。

近く娘が生まれる予定の看護師香川浩嗣さん（41）小倉南区朽網は「動かない人形でこんなに大変だとは…。力仕事なので妻の負担を減らすため早く慣れたい」と漏らした。

講座は1歳未満の子や孫がいるか、誕生予定がある男性が対象。NPO

法人「エガリテ大手前」（東京）の協力で市が2010年から開いている。赤ちゃんのマッサージやおむつ替えの実技もあり、大半を妻任せにしている私も「これだけ多くの作業を毎日1人でやっているのか」と驚かされた。

赤ちゃんの転落事故が相次いでいる「抱っこひも」についての座学もあり、看護師が「すぐに外すからと、ひもを緩く止めている場合も多い。物を拾うためにかんだりなど、意識が別の方に向く時は要注意」と呼び掛けた。

共働きの増加に伴い、祖父母が育児に関わるケースが増えているが、おじいちゃん世代の「イクジイ」5人も参加。吉原浩一さん（60）八幡西区幸神は、3月に大阪から来る初孫の世話に備えようと受講。「仕事が忙しかったので子育てをした。

た記憶はほとんどなく、反省も込めて参加した。ずっと抱っこするのは腕が疲れそう」と苦笑した。

就学前の子どもがいる父母約1500人ずつを対象にした北九州市の調査（13年）では、1日の育児時間が「30分未満」の男性は約20%。それに対し「8時間以上」の女性には約38%だった。

それでも、同法人が毎年実施する政令市の「子育て環境ランキング調査」で、北九州市は過去9回のうち8回でトップ。小児夜間救急医療や保育所が充実している点が評価されたという。同法人の古久俊嗣代表は「男性一人でも育児をこなせるようになって」と期待する。

5時間半の講座後に受け取った「パパシエ（イクメン）資格認定証」。「イクメンへの道」は、半ばだと痛感させられた。



赤ちゃんのマッサージを実践する男性参加者たち



赤ちゃんの人形を使い、入浴の体験をする記者